

## 第5章 地域のまちづくり

多様な地域性を有する本県の特徴を踏まえ、地域の個性ある発展を進めるため、3ゾーン・4地域とした地域区分ごとのまちづくりを示します。

### 第1 地域区分（3ゾーン・4地域）

本県では、都心からの距離に応じて土地利用の動向などが変化し、地域性が異なります。

この地域性を生かすため、3ゾーン・4地域に区分します。

- 県南ゾーン（都心から概ね10～30 km圏）
- 圏央道ゾーン（都心から概ね30～60 km圏）
- 県北ゾーン・北部地域（都心から概ね60 km以遠の北部地域）
- 県北ゾーン・秩父地域（都心から概ね60 km以遠の秩父地域）



### 第2 地域区分ごとのまちづくり

地域区分ごとの主な特徴及びまちづくりの目標に基づく主な取組を示します。

#### 1 県南ゾーン

##### (1) 主な特徴

- ・ 人口は、増加傾向が続いています。
- ・ 鉄道沿線に市街地が南北に連たんしています。
- ・ 連たんする市街地と市街地の間に貴重な緑地が残されています。
- ・ 東京に近接し、都市開発のポテンシャルが高い状況です。

(2) 主な取組

＜コンパクトなまちの実現＞

- ・ 拠点性の高い駅を中心に医療・福祉・子育て支援・商業などの多様な都市機能の集積を図ります。
- ・ 中心市街地へのアクセス性を高めるなど、生活の利便性の向上を図ります。
- ・ 市街化区域の拡大は、人口増加や企業誘致に伴う産業基盤づくりへの対応など、必要最小限の範囲とします。

＜地域の個性ある発展＞

- ・ 都市開発のポテンシャルを生かし、都市機能を集積し県の顔となるにぎわいあるまちづくりを進めます。
- ・ 高速道路インターチェンジ周辺や主要幹線道路周辺などで産業基盤づくりを進め、雇用の場を確保し、地域の活力を高めます。

＜都市と自然・田園との共生＞

- ・ 川を活用することにより「交流の場」や「憩いの場」を創ります。
- ・ 身近な緑を保全・創出・活用します。

## 2 圏央道ゾーン

(1) 主な特徴

- ・ 市町村によっては、人口減少の傾向を示しています。
- ・ 駅を中心に市街地が形成されています。
- ・ 都市と田園が共存した環境がつくられています。
- ・ 圏央道が整備され、企業立地のポテンシャルが高まっています。

(2) 主な取組

＜コンパクトなまちの実現＞

- ・ 中心市街地に医療・福祉・子育て支援・商業などの多様な都市機能の集積を図ります。
- ・ 中心市街地へのアクセス性を高めるなど、生活の利便性の向上を図ります。
- ・ 市街化区域の拡大は抑制することが原則です。ただし、圏央道インターチェンジや主要幹線道路を生かした産業基盤づくりを図る場合などを除きます。

＜地域の個性ある発展＞

- ・ 地域資源のネットワーク化を図り、地域独自の魅力を県内外に発信するなど、観光振興による地域の活性化を図ります。
- ・ 圏央道インターチェンジ周辺や主要幹線道路周辺などで産業基盤づくりを進め、雇用の場を確保し、地域の活力を高めます。

＜都市と自然・田園との共生＞

- ・ 川を活用することにより「交流の場」や「憩いの場」を創ります。
- ・ 市民農園、観光農園など田畑・里山を活用しつつ、良好な田園・自然を保全します。

### 3 県北ゾーン・北部地域

(1) 主な特徴

- ・ 人口減少が続き、高齢化も進行しており、地域コミュニティの維持が課題となっています。
- ・ 旧街道の宿場町と駅を中心に拠点性の高い市街地が形成されています。
- ・ 郊外部には豊かな田園地帯が広がっています。
- ・ 歴史や文化が継承され、祭りや観光名所などに恵まれています。

(2) 主な取組

＜コンパクトなまちの実現＞

- ・ 中心市街地に医療・福祉・子育て支援・商業などの多様な都市機能の集積を図ります。
- ・ 中心市街地へのアクセス性を高めるなど、生活の利便性の向上を図ります。
- ・ 市街化区域の拡大は抑制することが原則です。ただし、高速道路インターチェンジや主要幹線道路を生かした産業基盤づくりを図る場合などを除きます。

＜地域の個性ある発展＞

- ・ 地域資源を生かし、多彩な体験型観光を展開するなど、観光振興による地域の活性化を図ります。
- ・ 高速道路インターチェンジ周辺や主要幹線道路周辺などで産業基盤づくりを進め、雇用の場を確保し、地域の活力を高めます。

＜都市と自然・田園との共生＞

- ・ 「農」に親しめる居住地の提供など、都市住民のニーズを生かして田園環境の活用を進めます。
- ・ 荒川や利根川などに残る河川緑地など貴重な自然環境を保全します。

## 4 県北ゾーン・秩父地域

### (1) 主な特徴

- ・ 人口減少が続き、高齢化も進行しており、地域コミュニティの維持が課題となっています。
- ・ 駅を中心に拠点性の高い市街地が形成されています。
- ・ 大部分が森林地帯であり、これを縫うように荒川が流れており、豊かな自然環境があります。
- ・ 歴史や文化が継承され、祭りや観光名所などに恵まれています。

### (2) 主な取組

#### <コンパクトなまちの実現>

- ・ 地域の中心となる市街地に医療・福祉・子育て支援・商業などの多様な都市機能の集積を図ります。
- ・ 地域の中心となる市街地へのアクセス性を高めるなど、生活の利便性の向上を図ります。
- ・ 今後とも著しい開発の圧力は想定されないため、原則として区域区分は定めません。

#### <地域の個性ある発展>

- ・ 地域資源を生かし、宿泊を伴う観光を拡大するなど、観光振興による地域の活性化を図ります。
- ・ 主要幹線道路周辺などで産業基盤づくりを進め、雇用の場を確保し、地域の活力を高めます。

#### <都市と自然・田園との共生>

- ・ 秩父山地や荒川などの自然や自然公園を生かして体験型・滞在型の観光を進めます。
- ・ 秩父の山々や荒川などに残る河川緑地など貴重な自然環境を保全します。